

「おもてなしの心」を持つ町工場 ものづくりで顧客・社員・地域に還元

IT化の推進により生産品質と顧客数が大幅アップ

株式会社浜野製作所は、東京都墨田区に位置する板金・プレス加工メーカーである。チタン製の医療用インプラントパーツや通信機器コネクタなどの精密部品から、産業用機械の架台・筐体・店舗用什器などの大型製品まで幅広く取り扱い、ニーズに合わせて図面化から製造まで対応している。

1967年の創業当初は金型製作の請け負いに限定されていたが、93年に現在の代表取締役社長、浜野慶一氏が事業を引き継いで以降、ホームページの拡充や、社内ネットワークの整備による情報の一元化といったIT化に取り組み、引き継ぎ時に5社だった取引先は、2014年には1,011社と、約200倍の顧客数となった。また、納期や不良品率の大幅低減に成功。業務内容も、顧客のニーズに合わせて徐々

に拡充してきた。現在では製造分野のみならず、コストや品質安定性の面で顧客にメリットのある工法・形状を提案するなど、従来と比べて、ものづくりの川上に近いところから仕事を受けるケースが増えている。

事業の急成長を支える「自律的に動ける」人材の育成

同社の拡大・成長の源には、浜野氏の体験した試練があった。創業者である父から引き継いで7年後の2000年、近隣火災のもらい火によって工場が全焼してしまったのだ。厳しい状況の中で何とか会社を続けてこられたのは、社員、顧客、そして地域の人たちの支えがあったからだという。その際に生まれた会社経営への思いをまとめたものが、「おもてなしの心」を常に持ってお客様・スタッフ・地域に感謝・還元し、夢（自己実現）と希望と誇りを

持った活力ある企業を目指そう!という同社の理念だ。

理念を実現させるため、同社は社員としてあるべき人材像を「一人一人が経営者視点を持ち、必要な自己裁量権を持って、自律的に動ける人物」と定め、これに沿った人材の教育を行っている。

まず、自律性の高い人材育成としては、月に4回ほど行なう「社員のための工場見学」がある。案内役は全社員が持ち回りで担当するのだが、これによって、自分の業務以外の仕事の現場を知ること、共に働く仲間への感謝を覚え、自律心を高めることが狙いだ。また、月に1度は、「休日工場開放日」を設ける。これも一般の人に向けたものではなく、社員が工場設備を自由に使える日だ。「新しい機械を使って、もっといろいろなものを作りたい」という社員の成長意欲に応え、自主性やモチベーションを高めることに役立っている。



社員のための「工場見学」や担当部署以外の設備を自由に使える「休日工場開放日」などの制度を設け、社員同士の連携や能力向上、商品力強化を実現している。



工場の至るところにちょっとした装飾がある。「休日工場開放日」に社員が楽しみながら創作したもの。



新工場は「製造業のテーマパーク」を目指して、工場らしくない明るい外観となっている。

また、業務スキルの向上においては、社員一人一人の能力を明確にした力量マップを作成し、現在の自分のスキルを客観的に把握できるようにしている。これは各個人がスキルアップ目標を設定する際に活用され、より効率的に能力向上が図れるようになっている。また、休日工場開放日にも、社員同士で技術を教え合う場面が多々見られ、互いに能力を高め合う場にもなっている。

その他、産学連携で行なわれた深海探査艇「江戸っ子1号」開発プロジェクトや、電気自動車「HOKUSAI」開発プロジェクトでは、率先して手を挙げた若手メンバーをプロジェクトリーダーとして抜てきした。あまり脚光を浴びることのない町工場の仕事だからこそ、積極的に外部交流を行ない、自分たちの技術を世に出す場をつくる。自分たちが作ったものに対する「すごい」という称賛の声によって、社員は仕

事に誇りを持ち、それが成長につながるのだという。

情報発信基地で地域や工場同士のつながりを作る

同社では、地域の活性化にも取り組んでいる。中でも地域の子供たちに対するものづくりへの興味喚起に力を入れており、小学校の社会科見学や、中学校の職場体験も積極的に受け入れている。

その際に活躍するのが、「アウトオブキザニア」というプログラムだ。これは、子供向け就業体験施設「キザニア」とのタイアップ企画。実際の現場で、職人が使っている工作機械や道具を用い、遊びながらものづくりを体験することができる。

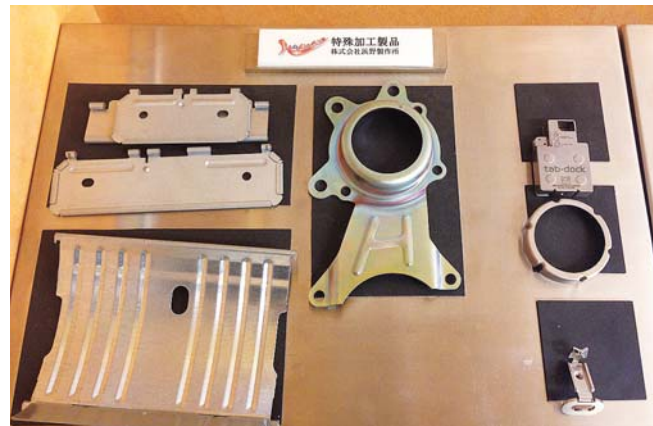
かつて町工場が多く存在した時代には、地域と工場、そして工場同士が密接につながっていた。「学校帰りに

工場をのぞくと、働いている人が仕事を見せてくれたり、鉄の球をくれたりした。こうした体験があったからこそ、製造業に多くの就業者が集まっていた」と浜野氏。子供たちとの交流に積極的なのも、かつてのつながりを復活させたいという思いからだ。

工場の減少に伴い、全国的に工場同士の連携が希薄になっている今、同社は墨田区の町工場のネットワークを活かし、全国の中小企業に声を掛けて展示会を開催した。日本のものづくりの最新情報を発信し、新しいビジネスの創出を目的とした「スモールメイカーズショー」がそれだ。また同社は大学と連携し、次世代ロボットの作成を手掛けるなどして地域や工場同士のネットワークを広げている。浜野製作所はネットワークのハブとなり、ものづくりの「情報発信基地」として地域に貢献する役割を担っていく。



入社1カ月にして深海探査艇「江戸っ子1号」開発プロジェクトのプロジェクトリーダーとなった山本佳代氏。



作られる製品の多くが新しい製品だという。社員一人一人の高い技術力があるからこそ実現できる。

会社概要

- ・法人名：株式会社浜野製作所
- ・代表者：浜野 慶一 代表取締役社長
- ・所在地：東京都墨田区八広4-39-7
- ・設立年月：1968年6月
- ・資本金：10,000,000円

- ・ホームページ：http://www.hamano-products.co.jp/
- ・社員数：正規26名、パート・アルバイトなど4名
- ・事業内容：板金・架台・筐体設計、各種アッセンブリ加工、精密板金加工・レーザー加工、金属プレス金型製作、金属プレス加工部品、試作品製作